感幸の町を目指して(4)

医療法人　野毛会
もとぶ野毛病院
理事長　出口　宝

　謹んで新春のお慶び申しあげます。

　今年の干支は丙午（ひのえうま）です。前回の丙午であった1966年には、丙午生まれの女性は「気性が激しく夫の命を縮める」などの迷信が原因なのか産み控えが生じて、前年度比で出生数が25%も減少しました。江戸時代に実在し歌舞伎や浄瑠璃の演目にもなった「八百屋お七」のお七が丙午生まれであったことをご存知の方もおられることと思います。しかし、俗信とはいえ日本が高度成長期であった時代に干支で出生数が減少したのは驚きですが、真実でないことを信じて行動するのはSNSに踊らされる現代社会も変わらないような気もします。SNSでの病気やお薬の情報(噂?)には十分に気をつけて下さい。

　毎年お話してきた幸せを感じる町である「感幸のまち」ですが、欠かせない要素があると思います。それは「子どもが多い町」です。全国的に少子化と過疎化が進んでいますが、中には子育てがしやすいと評判になって、若い夫婦が増えている地域もあるようです。昨年も将来人口について少し触れましたが、国立社会保障・人口問題研究所将来人口推計によると、本部町の推計人口は2025年の約12,900人から2045年には約9,640人に減少して、高齢化率は2025年(令和7年)の36.4%から2045年には40.6%に上昇すると見込まれています。これは全国平均よりも高い数値です。言いかえると、若い人たちが減って行くということです。一方、同じ北部でも名護市や宜野座村、恩納村では人口が増加すると見込まれています。そこで、本部町も若い人たちが住みやすい町、子育てがしやすい町となり、人口が増加して未来が明るい町になることを期待したいと思います。

さて、もとぶ野毛病院は皆様のおかげで2年後には開院40年を迎えます。これまで、医学の進歩に伴い医療は時代にあったものとなってきましたが、さすがに建物は古くなりご利用頂く皆様や働く者にとって使いやすいものとは言えなくなって来ました。そこで、数年前から様々な検討を重ねてきました。移転を勧める声もありましたが、本部町のこの場所にあって皆様にご利用頂いてきた野毛病院です。さらに、「地域再生に医療と教育は欠かせない」と言われますが、医療が衰退すると地域が衰退するのは言うまでもありません。そこで、当院も本部町の将来を考えて、本部町が「感幸のまち」になるためにも、現在のこの大浜の場所での建て替えを進める方針としました。当地は海抜が低いと言う問題もありますが、「日常の診療の向上と災害時のレジリエンスの向上の両立」をコンセプトとして計画を進めていきます。同一敷地内での建て替え工事となるため工事期間中はご不便をお掛けしますが、また、近隣の皆様にも何かとご迷惑をお掛けいたしますがよろしくお願い申し上げます。

　最後になりましたが、今年も安心して暮らせる本部町の一躍を担えるよう職員一同努めていきたいと思います。

　今年もよろしく御願い致します。